(独)住宅金融支援機構理事長賞

講　評：　大阪・千里に程近い住宅地に建つ、築32年の豪壮な戸建て住宅である。祖父母が他界し、5年ほど空き家となっていたが、子供の高校入学を期に移住のため全面リフォームをした。建替えも考えたが、祖父の家を継承したいとの意向が強く、最終的にリフォームを選択したということである。

新築時の祖父の計画意図を尊重して、立派な門構えと連続する重厚な石段、玄関へのアプローチはそのままにし、建物の反対側にガレージと新たな玄関を設置して機能性を高めている。外観は従来のままなので、親類が集まった際の懐古談に一役買っているとのことである。

この作品の優れている点は、リフォームによって平屋の良さを存分に引出したこと、四周を巡る外部や庭との関係に優れた配慮が見られることにある。

新しい主玄関からのアプローチ部分には、新たに低く抑えた屋根をかけ、植栽と長尺の一本石を巧みに配することで、陰影を強調した落着いた雰囲気を醸し出している。室内は、LDを中心に各部屋へすんなりとアプローチできるだけでなく、どこにいても全体の雰囲気が感じられ、お手本のようなユニバーサルデザインである。

南側の広い庭との関係は全面的に見直され、南面するどの部屋からも庭を望むことができる。その結果、従前のプランには無かった明るさと開放感が確保され、非常に心地よい空間となっている。加えて窓配置の工夫などにより南北の風通しが良くなり、今年の猛暑下でもクーラーの使用頻度は低いということである。

LDの天井に予期せず出てきた丸太梁は、インテリアとしての存在感と空間の大きさを感じさせてくれる。床は明るい色の無垢材、コルク材、琉球畳などが、室の用途に応じて使い分けられており、説明なしでも気持ちの良さが実感できる。

現行の耐震基準に適合する構造性能の確保、ペアガラス導入などによる各部の断熱・気密性能の向上、さらに、太陽光発電導入による省エネルギー効果などで、性能面は全体にバランス良く向上している。広い屋根を活用した雨水利用のタンクは庭の微笑ましいアクセントである。床は出入口も含め基本的にフラットであり、バリアフリー性を高めている。他方、和室は30cmほどの高低差を明確に設けて（畳下は収納スペース）、空間にメリハリを付けている。

平屋のメリットが良く生かされているだけでなく、子供が独立し、2人だけの生活となった場合でも、そのまま長く使い続けられる構成であり、サステナブルなリフォームとして完成度が高い。（独）住宅金融支援機構理事長賞にふさわしい作品である。

タイトル　継承の平屋　タイプ　持家一戸建　部門　総合

リフォーム前後の写真

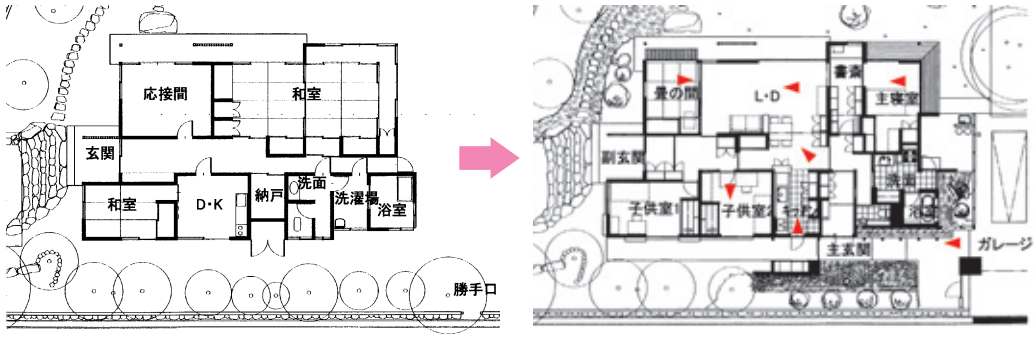
リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想 など

祖父が建てた平屋住宅を孫にあたる施主が、その佇まいを生かして改修、移住することとなった。立派な門構えを持つ玄関であったが、駐車場がないことから勝手口のあったエリアに駐車場と新玄関を設け、旧玄関を副玄関として残した。間取は個室傾向が強く、また広い庭との関連が弱いことから、ほとんど変更した。その際できる限り現在の基準に近づくよう構造を見直し補強している。L.D.Kはワンルーム化し、南の前庭に最大限に開放した。

祖父が力を注いだ庭も、既存の門構えや建物内部とのつながりを考慮し、石や樹木を再構成しながらリフォームを施している。230坪の広い敷地に悠々と建つこの平屋住宅。外部からの様子は、リフォーム前と大きくは変わらない。しかし実はハードもソフトも全く一新されている。その小さくて大きい変化を施主ご家族にも気に入っていただけたようだ。

特に配慮した住宅性能：間取りの一新に伴い開口部、壁、天井・床の気密・断熱性を上げた。太陽光発電、庭散水のための雨水利用タンク(樽)を設置。

データ

所在地	大阪府茨木市	構造／築後年数	在来木　造／　32　年
該当工事面積	261　㎡／総工事床面積　261　㎡	該当部分工事費	3,300　万円／総工事費　3,300　万円
居住者構成	15歳以上65歳未満：　4　人／65歳以上：　人／15歳未満：　人／ペット：猫1匹		
設計者	なづな工房　一級建築士事務所	担当者	嶋崎　真二
施工者	(株)マサキ工務店	担当者	政木　朗

リフォーム前　リフォーム後